

社会科学学習指導案

日 時 平成19年10月26日(金)

学 級 盛岡市立城西中学校 3年4組

(男子22名 女子16名 計38名)

指導者 教諭 菊池 毅

1 単元名 わたしたちの暮らしと経済 ～消費者の権利と保護～

2 単元・題材について

(1) 単元・題材について

学習指導要領では、個人、企業及び国や地方公共団体の経済活動を扱い、消費生活を中心に経済活動の意義を理解させること、市場経済の基本的な考え方を理解させること、現代の生産の仕組みのあらましについて理解させること、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に対して国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について考えさせることなどを主なねらいとしている。

本単元は、「わたしたちの暮らしと経済」の第1節にあたり、消費、流通、生産についての基礎的なことから取り上げ、経済活動の意義を身近な生活と結びつけて学習していく。これらは日常の生活の中で行われていることなので、生徒にとってイメージがしやすいものなので、学習指導要領のねらいをふまえて学習していきたい。

(2) 教材について

ここで学ぶことは、「財」と「サービス」に分けられる商品、商品の価格の決め方、交換価値の尺度としての貨幣の役割と循環、商品を買うために必要な家計の収入とその使われ方としての支出、クレジットカードをはじめとする多様となった支払い形態などである。

中学生の「買い物」の多くは、現在、大型スーパーやコンビニであり、近くの小売店は極端に減少している。また、商品の「財」と「サービス」に関して、特に「サービス」は、生徒の生活の中にも携帯電話・インターネット利用など情報機器の普及に伴い、この分野の購入は急速に高まっている。それが、家計の支出にも多大な影響を与えている。

価格に関しては、同じ商品が違う小売店で値段が違うことや、工業化された商品と生鮮食料品のような市場経由の価格決定が、どのようになっているのかなども考えさせたい。その場合、価格が需要と供給によって決定されている面ばかりでなく、価格が私たちの消費行動に直接的に影響を与えていることを学習する。

このように、普段家庭で使用しているものなどを用いながら、これらの経済活動が自然に行われている意味を理解し、学習を構成していきたい。

(3) 生徒について

生徒は明るく、おおむね授業に意欲的に参加しようとする姿勢が感じられる。発言は男子を中心に見られるが、自分の考えをきちんと整理して発表するまでにはなっていない。

経済活動に関することでは、生徒は、今まで地理的分野の学習で貨幣の統一や関税などの学習として、ヨーロッパの経済統合から政治統合の動きを学んでいる。また、歴史的分野の学習では、資本主義の発生なども産業革命の関係で学んではいる。

経済生活については、生徒は消費者として暮らしており、経済活動が生徒の消費活動と密接なかかわりをもつことは言うまでもない。様々な資料を提示しながら、消費者問題について考えさせたい。

(4) 指導の構想

本単元では、大きく2つの観点から構成されている。

「私たちの生活と経済」

経済活動の意義、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させ

る。また、現代の生産の仕組みのあらましや金融の働き、企業の役割と社会的責任について理解させる。

「国民生活と福祉」

社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など市場の働きにゆだねることが難しい諸問題について、国や地方公共団体の果たす経済的役割について考えさせる。

経済についての関心を高めるためにも、できるだけ身近なものを使いながら学習を進めていきたいと考え、本單元における【生徒の役割】と【教師の役割】を次のようにする。

【生徒の役割】

与えられた資料を的確に読み取ることができる。

様々な問題に対する自分なりの考え方をもち。

自分の考え方だけでなく他の考え方や意見も聞き、違いに気づく。

【教師の役割】

授業の中で生徒に考える時間を十分に保障する。

生徒が学習への手がかりを得やすくなるような学習内容の工夫。

教師と生徒が一緒になって学習するという関係づくりを大切にする。

3 単元・題材の目標

- (1) 身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解することができる。
- (2) 個人の消費活動や企業の経済活動について理解させる。

4 単元・題材の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の 技能・表現	社会的事象についての知 識・理解
会社や店舗の経営、商品の 広告調査や小売店の聞き 取りなどの課題学習に意 欲的に参加するとともに、 現実の経済に対し関心を持 ち、経済活動における選 択について考えようとする。	身近で具体的な事例 を通して、経済活動に おける選択について、 消費者・生産者など 様々な立場から多面的・ 多角的に考え、公正に 判断している。	個人の消費活動や 企業の経済活動につ いて、様々な情報手 段を用いて自分の考 えをまとめたり、わ かりやすく発言や発 表を行ったりしてい る。	身近な消費生活を通し て、経済活動の意義や生 産・流通・消費といった 経済の大まかかなしくみ を理解するとともに、経 済活動が私たちの生活と 密接なかわりがあるこ とに気づき、その知識を 身につけている。

5 単元の指導計画 わたしたちの生活と経済・・・5時間

- (1) ハンバーガーショップの経営者になってみよう・・・1時間
- (2) 消費と貯蓄・・・1時間
- (3) 消費者の権利と保護・・・1時間(本時)
- (4) 流通のしくみ・・・1時間
- (5) 生産のしくみ・・・1時間

6 本時の指導

(1) 目標

宣伝や広告と日常の消費行動との関係に着目し、消費者主権について関心を持つ。

【関心・意欲・態度】

消費者の権利と保護について、実際の被害例や対応策を通して考える。

【社会的な思考・判断】

(2) 本時における【生徒の役割】【教師の役割】

本時は、課題的解決的な学習を展開し資料を通して、消費者の権利と保護について、実際に被害にあった例をもとにしながらどのように対応していけば被害にあわないのか、身近にある広告から私たちの消費活動とどのように結びついているのかの2点について考えていく。

そこで、本時における【生徒の役割】と【教師の役割】を次のようにする。

【生徒の役割】

資料から被害にあわないためにはどうすればよいかを考える。

広告と私たち消費活動とどのように結びついているかを考える。

【教師の役割】

生徒が学習を進めやすくできるような資料の提示をする。

生徒相互の意見が交流しやすい雰囲気をつくる。

授業の中で生徒に考える時間を十分に与える。

(3) 展開

	学 習 内 容	学 習 活 動	留意点など	評 価
導 入 10 分	1 前時の確認 2 学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 消費者をめぐるトラブルをどのようにしたら防ぐことができるか。 </div>	1 前時の復習をする。 ・家庭の経済活動を何というかなど 2 本時の学習課題を設定する。	あまり時間をかけない 消費者からの相談の資料 資料を見て気づいたことを発表させる ・契約で相談する人が多い ・相談件数が増えている など	課題への意識を高めることができたか。 (発表)
展 開 35 分	3 課題に対する予想 4 課題の追究 (1)商品の販売方法について ・悪質商法 ・携帯やインターネットによる被害 (2)消費者の権利と保護について ・クーリング・オフ ・製造物責任法(PL法) ・消費者の4つの権利	3 課題に対する予想を立てる。【生徒の役割】 ・だまされない ・自分でよく考えてから買う ・誰かに相談する など 4 資料をもとに課題を追究する。 (1)商品の販売方法から課題を追究する。 (2)消費者の権利と保護書から課題を追究する。	商品の販売方法の資料 ・悪質商法には様々な手口があり、消費者の心理をうまく利用していることに気づかせる。 ・携帯やインターネットなどの被害は生徒の身の回りでも起こりうることを意識させる。 【教師の役割】 消費者の権利と保護の資料 ・消費者の問題を解決するためには消費者だけでなく、国や企業の努力があることに気づかせる。 【教師の役割】	考察するために必要な資料は何かを考えることができたか。(ノート) 資料に基づいて様々な視点から悪質商法の手口を指摘できたか。 (発言)
終 末 5 分	5 本時のまとめ	5 本時のまとめをする	商品購入をめぐるトラブルが多々あり、それらを防ぐには賢い消費者にならなければならないが、公的機関にも支えられていることに気づかせる。	学習した内容をまとめることができたか。 (プリント)